■任期満了に伴う枕崎市長選挙が１月17日行われ、即日開票の結果、神園征氏が当選しました。

また、よろしくお願いします

枕崎市長　神園　征

存在感のある市（まち）へ

- 雇用の場を増やす
- 福祉の充実～強力な子育て支援など
- 財政健全化
- 市街地のにぎわい再生～コンパクトシティ構想
- 職員の地域担当制をつくる～市民の満足感を第一に考えた問題解決
- 快適な環境づくり

初登庁日の一日

みなさん、こんにちは。

重い責務を担って、今日、平成二十二年一月二十六日、再び市長に就任しました。

二度目の市長就任ですが、たくさんの市民の方々や職員たちに迎えられての登庁は、自身初めての経験でした。前回の初登庁日は、晴れがましいことの苦手な性と、自分が迎えられるのでなく、役所へいらっしゃる方をお迎えするべきだとの考えから、八時半の開庁時間には私は玄関に立ちました。そのため、職員への初訓示は八時十五分から行いました。このことが後日、職員側から批判される一歩になりました。八時十五分はまだ勤務時間ではないとの理由からでした。

驚きでした。

今回は、無用の摩擦は避けようとの思いから慣例にならったわけです。

初訓示を済ませ、役所内を巡った後、市内各所への挨拶回りが続きましたが、午後には中断し、臨時の課長会を開きました。その席では私の公約について概略を述べました。そして、それらの実現に向かっては、各課や係が縄張り争いやその逆の譲り合いを避け、自分たちが役立てることは何があるかを考え、積極的に関わっていくように強く求めました。

たとえば、行財政改革一つとっても、ある課や係だけが担当するのではなく、本来全ての職員が考えるべきなのです。今後実際に、全ての職員に改革案の提出を求め、それらを集約していきます。

課長会後、何点かの具体的指示をした上で市内外への挨拶回りを再開しましたが、その途中にも、電話で指示を与えるなどしながらの一日でした。

就任初日にしては異例かもしれません。しかし、やたらに焦（あせ）っているわけではありません。ただ、今の枕崎には、それが求められているのだとご理解ください。

何より、地域が元気に蘇（よみが）るきっかけは役所の職員はもとより、市民が現実を知り、危機感を持つことだと思います。

大安吉日で、珍しく屋久島が望めるスッキリ快晴の一日でした。

ところで、社会福祉協議会の水増し請求問題については、私の市長一期目の退任後間もなく、当時の社協職員たちから情報が入りました。私は直ちに市の関係者たちに事実を確かめた上で、新市長宛に調査要望書を提出しました。

その後、市・社協それぞれが調査委員会を設置。やがて調査報告書が出されましたが、その内容たるや、真相解明とはほど遠く事実と違うことが多いものでした。私は独自の調査書を市に提供するなどして、真実を公表するよう強く求めましたが、当時の市はそれをしませんでした。

私の独自調査では、社協の水増し請求は、平成六年度途中から始まり、平成十四年度から一年間を除き、平成十五年度末まで長年にわたり行われていました。この平成十五年度の一年間は私の市長在任中のことでありますので、真実を市民の前に明らかにした上でお詫びしたいとの思いから、真相解明を求めていたわけです。しかし、それがかなわないままながら、今、みなさんにお詫び申し上げます。

今後、再びこのようなことがないよう気を引き締めてまいります。と同時に、情報開示など開かれた市政の理念の下、市政運営に努めます。

なお、再調査を求める声もありますが、証拠書類など既に破棄されている可能性が高く、私としては、この事に労を費やすよりも、枕崎の再生に全力を尽くしてまいりたいと考えております。

▲神園市長の初登庁にはたくさんの市民や職員がお出迎えしました。

市民の皆さま ありがとうございました

前市長
瀬戸口 嘉昭 氏

一月二十五日、市職員、市民の皆さま方の温かい眼差しに送られて、枕崎市役所を後にいたしました。

この四年間、前半は、ご承知のようにいろいろな難題の解決に追われる日々でしたが、後半は、職員や議会、市民の皆さま方のご理解とご支援をいただき、目一杯の仕事ができ、四年の任期を全うできました。本当にありがとうございました。

この四年間、苦しかったこと、楽しかったこと、数えればキリがありませんが、瀬戸桜公園の造成は、別府地区の皆さま方の多額の浄財の寄付と、市民の皆さま方の記念樹でできたものであり、瀬戸公園と共に、南薩の桜とアジサイの名所として残っていくものと感謝を申し上げます。

市民の要望の多かった駅舎も「枕崎駅前観光案内所」という形でできましたし、優良食品会社「㈱マルハチ・テクノロジー」の進出協定調印ができたこともうれしいことでした。

枕崎市の一番の課題は、厳しい財政の改革でありましたが、職員、議会、市民の皆さま方のご協力をいただき、四年間、必死に取り組んだ結果、目標を大きく上回る二十一億円余りの金を生み出すことができましたし、ここ十年以上、一四〇億円レベルであった市の借金も、十八億円余り返済することができ、今後の市政運営に大きな力となるものと存じます。

このほか、市漁協存続のカギをにぎる十億円の損失補償もいたしましたし、長年の懸案であった学校給食センター建設も軌道に乗せることができました。また、峯尾峠入口のＳ字カーブの改修、馬追川下流部の改修、金山地区の花渡川の改修など、いくつもの大きな事業も始まりました。これらは、市職員が先頭に立って県との交渉を行ったり、県当局のご理解などがあってのことととありがたく思っています。

一番の思い出は、市制施行六十周年の諸行事を多くの市民の皆さま方とともに、盛大かつ有意義になし得たことです。稲盛和夫京セラ名誉会長の心に沁みるお言葉、桂三枝さんの見事な演技など、枕崎が全国に発信されました。

枕崎市の繁栄と市民の皆さまのご健勝、ご活躍、ご多幸を心から念じてごあいさつといたします。

副市長退任にあたり

前副市長
中村 秀雄 氏

平成十八年三月に副市長を拝命し、以来三年十月に亘り市長を補佐し、職員との職務の円滑化に努めてまいりました。この間、特に行財政改革に力を注いできましたが、職員はもとより市民の皆さまにも多くの面で協力をいただきました。心から感謝申し上げます。この困難な時期を乗り切るためには、市役所が変わること・職員一人ひとりが変わること、そして市民みんなの力を借りて「市民協働」という形で市政を進めることが必要であるとの考えで、市政運営に携わってきたつもりであります。行財政改革は、今後ともさらに厳しく進めなければなりませんし、少子高齢化問題・雇用問題・福祉問題等々まだまだ多くの課題が残っています。今後とも、市民相互の協調により、枕崎が限りない発展を続けることを祈念しております。

一般職員時代から通算して四十四年弱の公務員生活を終えることになりますが、これからは一市民として枕崎市の発展のため、応援してまいります。

市民の皆さまのますますのご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ、退任のあいさつといたします。ありがとうございました。

瀬戸口前市長、中村前副市長お疲れさまでした

議場での退任式後、たくさんの市民や市職員などが市役所玄関前に集まり、４年間、市長、副市長として本市発展のために尽力されたお二人を温かい拍手で見送りました。